

現代経営学演習(2017年度)

担当：松尾博文

I. 授業のテーマと到達目標

「現代経営学演習」は専門職学位論文（修士論文）を作成するための研究指導（演習）を中心としたゼミナール形式の授業です。現代経営学演習では、社会人MBAとして、自分の所属する会社、事業部が直面する問題の本質は何か、抜本的な解決策は何かを大学という自由な環境の中で考え抜いていただきます。修士論文には、2つの要件があります。経営学の論文である事、自社の幹部が読んで、会社の経営に関して重要な提言が含まれている事。この2つの事項について、説明します。

経営学の論文として、まず研究課題を設定するのですが、経営の現状がどうなっているかというような調査研究は好ましくなく、経営における因果関係の導出が求められています。つまり、経営の状態が何故そのようなになっているのか、或いは、経営が如何にして成功に導かれているのかという問いをリサーチ・クエスチョンとして設定し、その問いに対する答えを仮説として形成することが求められています。経営学の論文では、このリサーチ・クエスチョンと仮説のペアが説得力を持って提示されていることが重要です。説得力を担保するためには、既存研究のレビュー、インタビューデータ、サーベイデータ、2次データ等のエビデンスを基に、厳密に論理的に議論を展開する必要があります。

社会人MBAの修士論文としてのもう一つの要件として、会社の経営の問題に関して重要な提言を含んでいると自社の幹部が読んで認識できることが挙げられます。そのためには、上記のリサーチ・クエスチョンと仮説のペアが会社の経営に関して、意味を持つ必要があります。MBAの体系的な授業、文献の読み込み、同僚の学生との議論を通じて、入学前に持っていた漠然とした経営に対する問題意識を具体的、明確、絞り込まれたリサーチ・クエスチョンに落とすプロセスを経ます。そのリサーチ・クエスチョンに対して、仮の答えである仮説を設定し、その検証を行い、リサーチ・クエスチョンと仮説のペアをよりシャープなものにして行くというサイクルを廻します。経営に関して重要な含意がある仮説を形成するということが必須であり、含意以上の具体的な提言に直結するリサーチ・クエスチョンと仮説のペアを見出すことがこの授業のチャレンジな到達目標となります。

上記の経営学の修士論文の2つの要件を満たすためには、最初の一步として、経営学の論文として研究課題を設定する事と修士論文の結果導かれた提言の対象となる経営問題を明確に定義する事の整合性を意識する必要があります。また、リサーチ・クエスチョンと仮説のペアを説得力のあるものとするための、実行可能な研究計画を立てる必要があります。課題と問題設定では、大風呂敷を広げるのではなく、「具体的、明確、絞り込み」を肝に銘じて、意味のある、検証可能なものにして行きます。

14名の学生と1名の指導教員で、14の修士論文を co-produce するというふうに意識して授業に取り組んでください。もちろん、1つの修士論文に対する各人の自然な役割分担はあるのですが、問題意識の共有、他の学生に対する尊敬の念を持った辛辣ですが、建設的な批判の交換、プロセスと結果の共有に心がけてください。最後は個人責任の修士論文ですが、皆で無事、立派にゴールすることを目指しましょう。

II. 授業のスケジュール

① 8月5日(土)

この日は、自己紹介、問題意識、対象とする経営問題の定義、初案のリサーチ・クエスチョンと仮説の提示をしていただきます。上記の説明を参考にして、とりあえず作成してみてください。

8:50-10:20 自己紹介（各自5分間、口頭）

10:40-12:10 問題意識、対象とする経営問題の定義、リサーチ・クエスチョンと仮説についての発表（問題意識、対象とする経営問題の定義、リサーチ・クエスチョン・仮説の紙ベース2ページの記述を8:50に指導教員に提出すること。パワーポイントを使った発表はしない。各自5

分程度の発表と5分程度のQ&A)

13:20-14:50 問題意識、対象とする経営問題の定義、リサーチ・クエスチョンと仮説についての発表のつづき

15:10-16:40 break-up discussions (3チームに分かれて、討議)

17:00-18:30 問題意識、対象とする経営問題の定義、リサーチ・クエスチョンと仮説についての改訂版の発表 (Q&Aも含めて各自5分間、口頭)

② 9月23日(土) 8:50-12:10

前回の議論を基に、問題意識と対象とする経営問題の定義の洗練とそれと整合性のあるリサーチ・クエスチョンと仮説を考えてきてください。この時、研究の実行可能性も考慮してください。

8:50-12:10 問題意識、リサーチ・クエスチョンと仮説についての発表(1ページの問題意識の記述と1ページのリサーチ・クエスチョンと仮説の紙ベースの記述を8:50に指導教員に提出すること。各自5分程度パワーポイントを使った発表と5分程度のQ&A)

13:20-18:30 M2 修士論文のポスターセッションへの参加

この日の終わりまでに、リサーチ・クエスチョンと仮説の第1版の目安を付ける事。次回までに、主要文献を見つけ、洗練された問題の定義、リサーチ・クエスチョンと仮説の設定に向けて、研究を始めてください。

③ 12月23日(土・祝)

8:50-12:10 経営問題の定義、リサーチ・クエスチョンと仮説、主要文献、今までわかったこと、これからの研究計画についての発表(2ページの記述を8:50に指導教員に提出すること。各自5分程度パワーポイントを使った発表と5分程度のQ&A)

13:20-14:50 break-up discussions (3チームに分かれて、討議)

15:10-18:30 経営問題の定義、リサーチ・クエスチョンと仮説、主要文献、研究計画についての発表-改訂版

この日の終わりまでに、経営問題の定義、リサーチ・クエスチョンと仮説、主要文献、研究計画について概ね決定する。1月~3月はその計画に従って、研究をすすめること。

III. 成績評価の方法

個人の修士論文の評価が中心的なものになりますが、tie-breaker としては、他のグループメンバーに対する貢献度を持って評価します。経営学研究科の専門職学論文の評価基準は以下のように決まっております。

[専門職学論文の評価基準]

- 1 論文に対して誠実かつ真摯に取り組んでいること。
- 2 仕事で抱いた問題意識に関連したテーマを設定していること。
- 3 現実に対して意味のある結果と含意を導出していること。
 - (1) 経営にインパクトを与えることを志向し、現状の問題解決と未来への構想あるいは普遍性がある。
 - (2) 通説や固定観念にとらわれないオリジナルな考察がある。
- 4 その結果と含意を導くプロセスが信頼に足り、説得力があること。
 - (1) 先行研究・調査のフォローがある。
 - (2) 結果と含意を支持するエビデンスがロジカルな調査・分析により導かれている。
 - (3) ただし学術的な意味で方法論の厳密性にはこだわらない。

IV. 参考図書

ロバート・K・イン (2011『ケーススタディの方法(第2版)』近藤公彦訳、千倉書房)

佐藤郁哉 (1992『フィールドワーク 増訂版』新曜社)

田村正紀 (2006『リサーチ・デザイン』白桃書房)

Eisenhardt, K. M. 1989. Building theories from case study research. *The Academy of Management Review* 14(4) 532-550.